

**「これからの学校づくりにつながる
評価活動についての意識調査」**

結果のまとめ

三重県総合教育センター

目 次

意識調査の目的	1
意識調査の方法	1
1 実施までの経緯	
2 意識調査の内容	
3 調査対象	
4 調査の実施	
(1) 調査実施期間	
(2) 返送方法	
5 回収状況	
結果	3
1 現在行っている評価・反省等の実態	3
(1) 評価・反省等の具体的な方法	
ア 具体的な方法	
イ 検討の方法	
(2) 評価・反省等のねらい	
(3) 評価・反省等のねらいの達成度	
2 現在行っている評価・反省等の成果や課題についての意識	7
(1) 評価・反省等に対する意識	
ア 校種別 イ 学校規模別 ウ 職種別 エ 勤務年数別	
オ 現在の評価・反省等の方法別	
(2) 「今のままでよい」とする理由	
ア 校種別 イ 学校規模別 ウ 職種別 エ 勤務年数別	
(3) 「改善が必要」とする理由	
ア 校種別 イ 学校規模別 ウ 職種別 エ 勤務年数別	
3 これからの評価・反省等についての意識	15
ア 校種別 イ 現在の評価・反省等に対する意識別	
意識調査結果のまとめ	17
巻末資料	18
1 意識調査表	18
2 素集計表	20
3 クロス集計表	23

意識調査の目的

今、学校の自主性、自律性が求められるとともに、学習者を起点とした教育活動の展開が望まれています。また、情報公開、アカウントビリティーといった学校として果たすべき責任にも多くの関心が寄せられています。このような情勢の中、学校における自己点検・自己評価の重要性に注目が集まり、各学校で主体的にその取組を進めていくことが求められています。

現在、三重県総合教育センターでは、各学校が教育活動の評価を進めるための支援を研究しています。その基礎的な資料とするために、この意識調査を行うことにしました。

(平成12年度2月実施の意識調査より)

意識調査の方法

1 実施までの経緯

意識調査実施までの経緯の概略は次のとおりです。

平成12年9月 ・教育関係機関及び教育団体等に、事業の趣旨説明を行い、研究協力者会議への参加を依頼する。

< 依頼先機関 >

教育事務所長会

三重県市町村教育委員会連絡協議会

三重県市町村教育委員会教育長会

三重県小中学校長会

三重県教職員組合

10月 ・前述の機関、団体等の協力を得て第1回協力者会議を開催する。

事業の方針、具体的な活動等について協議をする。

各小中学校の現在の取組や教職員の意識を踏まえて事業を推進する。

各小中学校の自己評価に関する主体的な取組を尊重する。

12月 ・第2回協力者会議を開催する。

具体的な活動等について協議を重ねる。

試行・試案等の具体的な提示の前に、教職員の意識把握が必要である。

意識調査を行い、教職員の意識の上立った事業の推進を図るべきである。

実施前に関係機関等への趣旨説明を行い、理解を求める。

平成13年1月 ・第3回協力者会議を開催する。

意識調査の内容について協議を行う。

調査内容の柱立て

現在行っている評価・反省等の実態把握

現在行っている評価・反省等の成果や課題についての意識の把握

これからの評価・反省等についての意識の把握

2月 ・各教育事務所、市町村教育委員会及び県内各小中学校宛て意識調査実施までの経緯を含む協力依頼状(本依頼状)を送付する。

・教育事務所、市町村教育委員会を通じ、意識調査協力依頼校(無作為抽出)に意識調査票を送付する。

3月 ・意識調査票回収

・集計作業委託

・集計結果分析

2 意識調査の内容

意識調査の内容は、次の2つである。

現在、各学校で行われている評価・反省等の成果や課題について
これからの学校における評価・反省等の在り方に関する意識や意見について

3 調査対象

三重県公立小中学校の約2割の学校を、小中学校別・規模別に無作為抽出した。その結果、次のように、小中学校合わせて126校に調査協力校として意識調査をお願いした。

	小規模 小学校：8学級以下 中学校：10学級以下	中規模 小学校：9～14学級 中学校：11～17学級	大規模 小学校：15学級以上 中学校：18学級以上	合計
小学校	45	26	18	89
中学校	19	12	6	37

調査は、調査協力校のすべての教職員を対象として行われた。

4 調査の実施

(1) 調査実施期間

平成13年2月20日(火)から3月9日(金)まで

(2) 返送方法

調査票に同封した返信用封筒で調査協力依頼校から三重県総合教育センター宛て返送していただいた。

5 回収状況

学校数 125 / 126校 + 1校(*1)

教職員数 2232 / 2355人 + 33人

回収率 94.8%(*2)

*1 自主的に協力していただいた学校が1校ある。

*2 回収率は協力依頼校のみの数値である。

結果

- ・ 結果のグラフ中の数字は、全て単位は%である。
- ・ その他・不明等の割合が少ない場合は、グラフ中から数字を削除してある。
- ・ 詳細については、巻末に表を掲載してあるので、そちらの方を参照していただきたい。
- ・ 3～6ページについては校長のみの回答であり、7ページ以降は全職員の回答である。

1 現在行っている評価・反省等の実態

(1) 評価・反省等の具体的な方法

あなたの学校では、教育活動に関する評価・反省等をどのように行っていますか。(ア)(イ)
それぞれの項目の中から1つずつ選んでください。

(ア) 具体的な方法

評価項目や評価の視点を明らかにした評価表で行う

自由記述で行う

話し合いで行う

その他 ()

(イ) 検討の方法

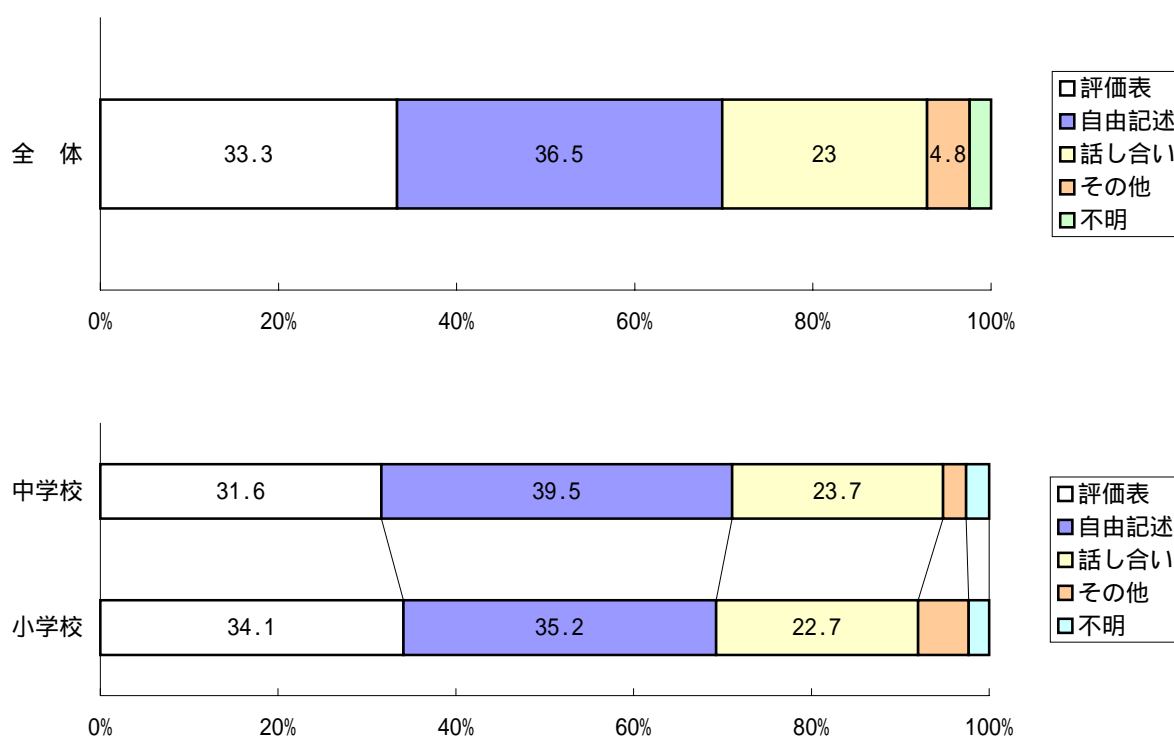
委員会等の小グループで行う

職員会議で行う

話し合いは行わない

その他 ()

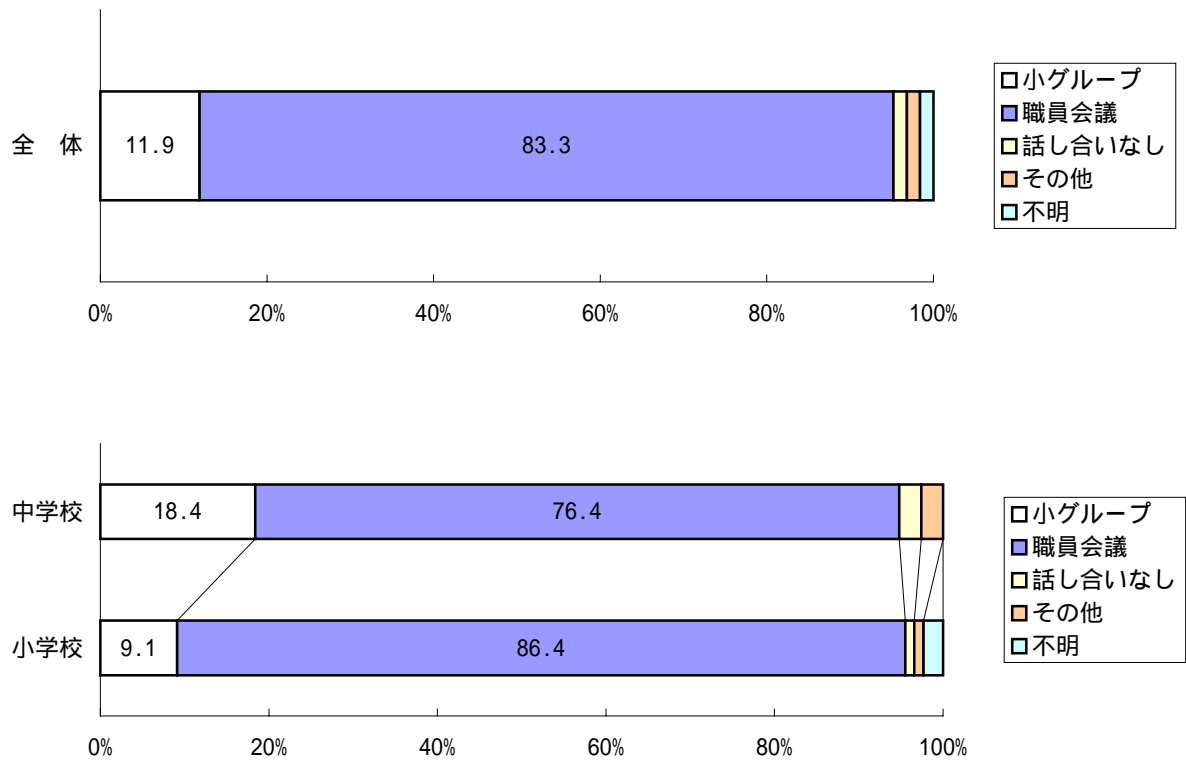
ア 具体的な方法



小中学校どちらにおいても約7割の学校で評価項目や評価の視点を明らかにしたのものや自由記述等の評価表を用いた方法で評価・反省等が行われている。また、約3分の1の学校では、「評価項目や評価の視点を明らかにした評価表で行う」という方法で行われている。

小学校と中学校とを比べてみると、小学校の方が「評価項目や評価の視点を明らかにした評価表で行う」という方法で行われている割合が若干多くなっている。

イ 検討の方法

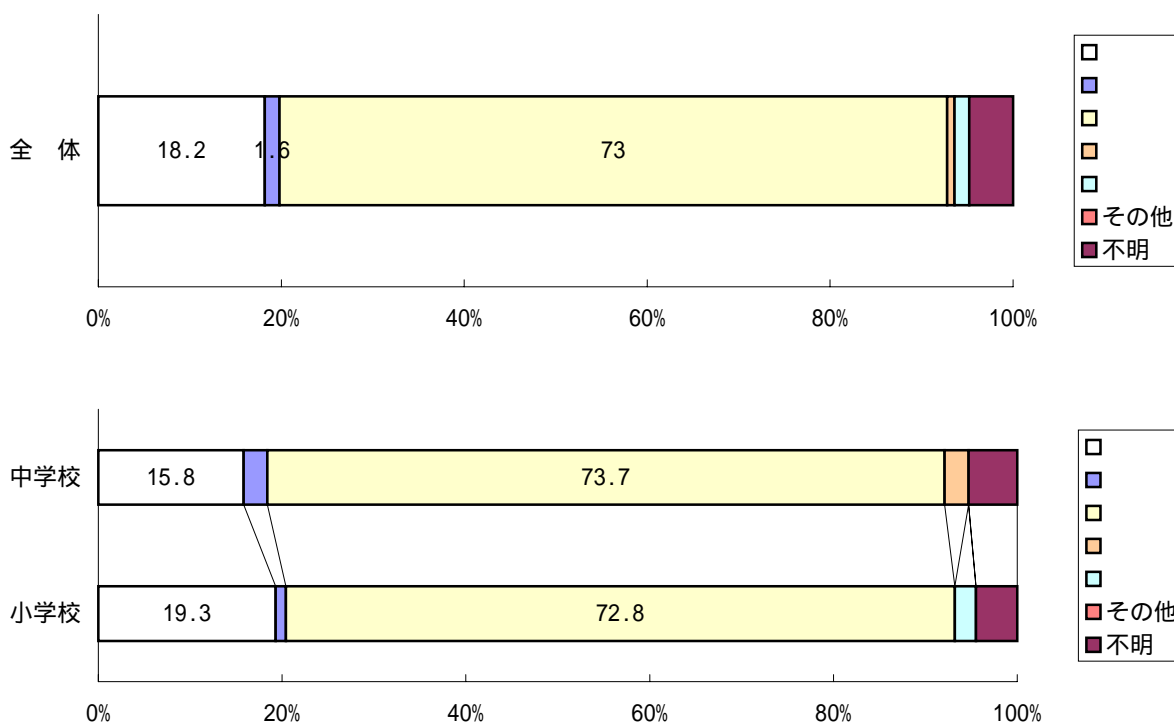


ほとんどの学校で評価・反省等について、話し合いでの検討や共通理解の場が設定されている。

(2) 評価・反省等のねらい

あなたの学校では、どのようなねらいで教育活動に関する評価・反省等を行っていますか。
 もっとも重点を置いているもの1つを次の中から選んでください。

教育目標の達成度を確認するため
 学校の実態を把握するため
 次の教育活動をよりよいものにするため
 教職員の協力体制を深めるため
 ねらいについては特に決めていない
 その他()

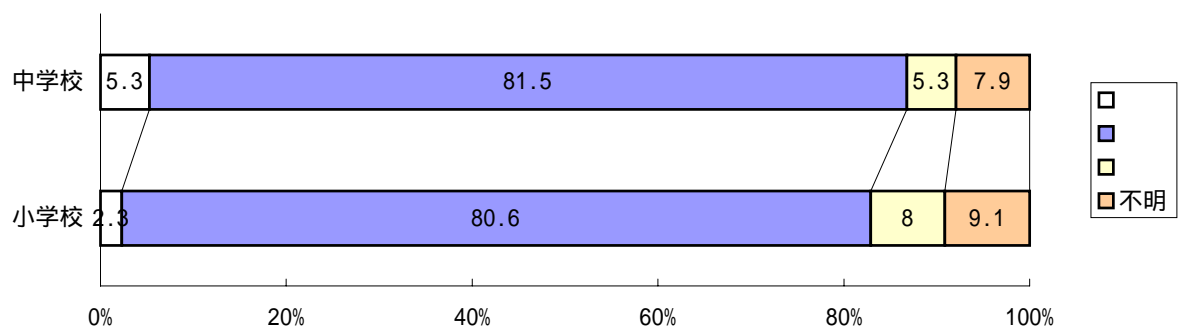
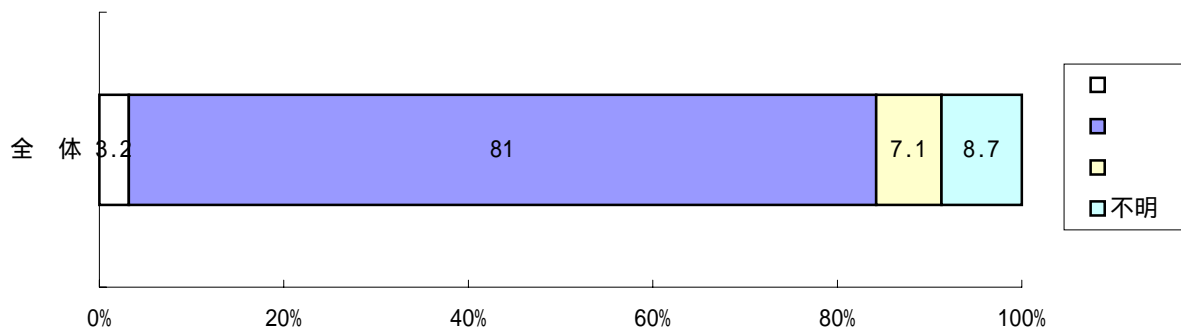


小中学校において、評価・反省等のねらいを「次の教育活動をよりよいものにするために」と考えている学校が7割を超えている

(3) 評価・反省等のねらいの達成度

そのねらいは達成できていますか。次の中から1つ選んでください。またその理由をお答えください。

十分達成できている
 だいたい達成できている
 あまり達成できていない



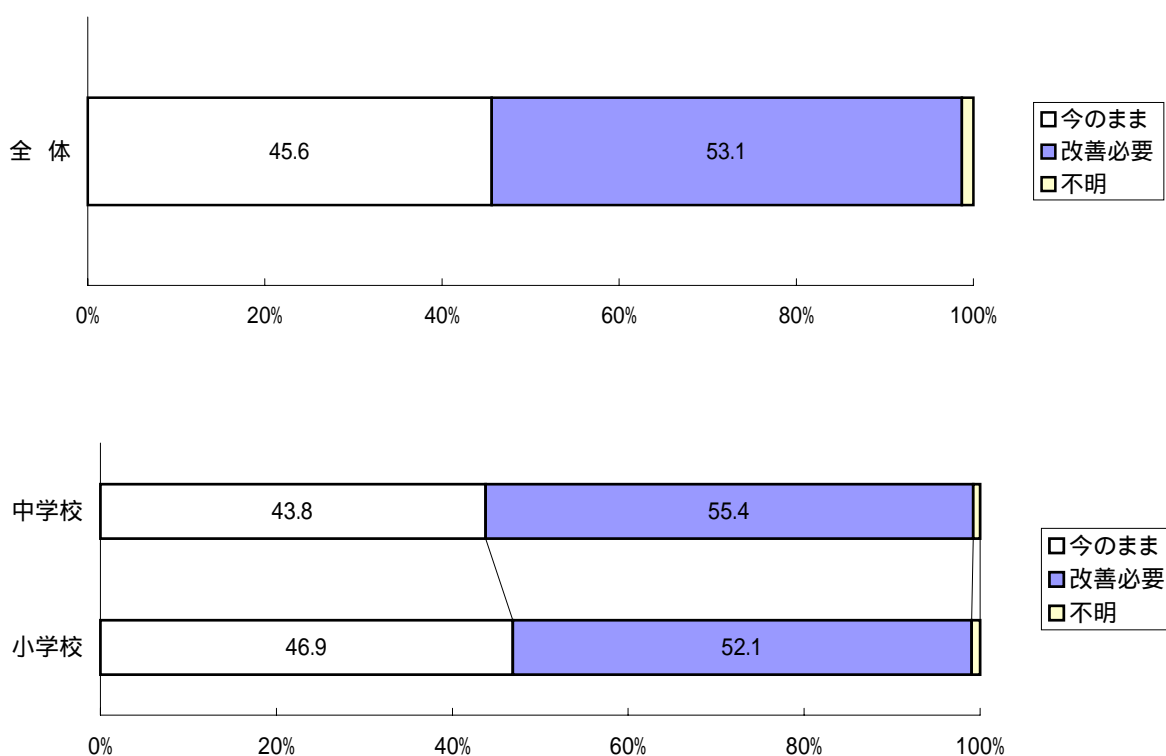
小中学校において、評価・反省等のねらいが「ほぼ達成されている」と考えている学校が8割を超えている。

2 現在行っている評価・反省等の成果や課題についての意識

(1) 評価・反省等に対する意識

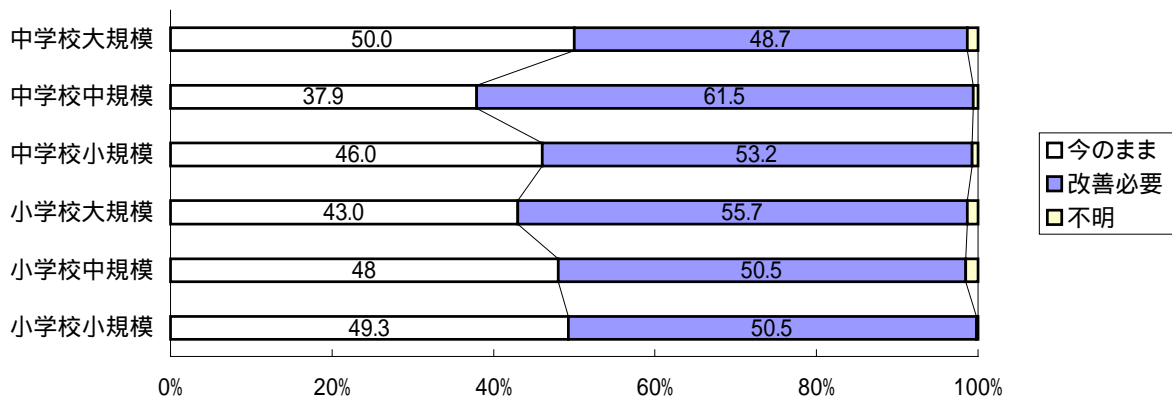
現在あなたの学校で行われている評価・反省等を踏まえてお答えください。
現在学校で行われている評価・反省等について、あなたはどのように考えていますか。
次の中から1つ選んでください。
今のままでよい
改善が必要である

ア 校種別



校種によって評価・反省等に関する意識の違いはほとんどないと考えられる。

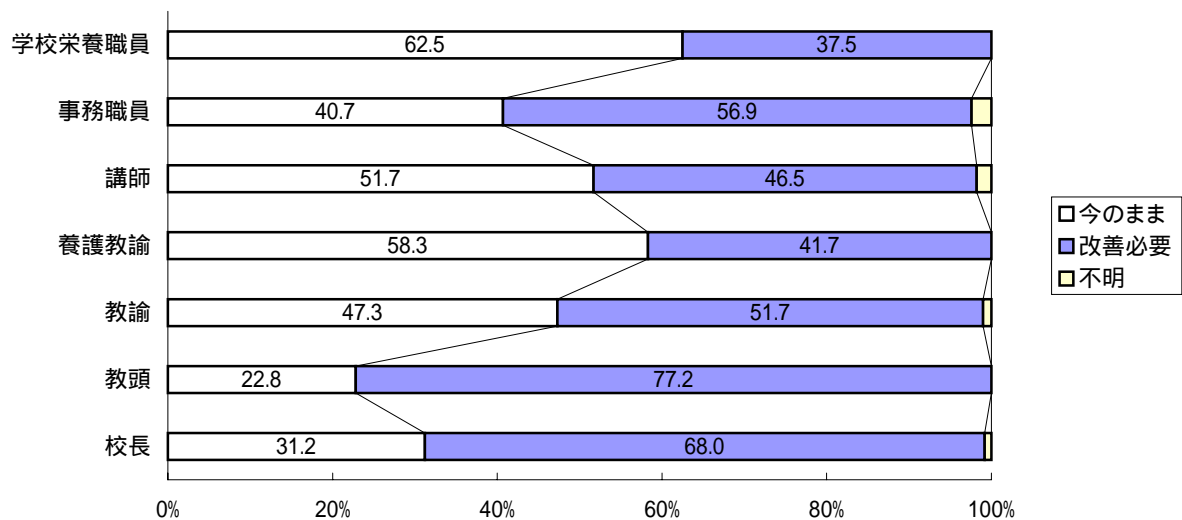
イ 学校規模別



中学校の中規模の学校では、中学校大規模及び小学校小・中規模の学校に比べ、「改善が必要である」と考えている人数が多くなっている。

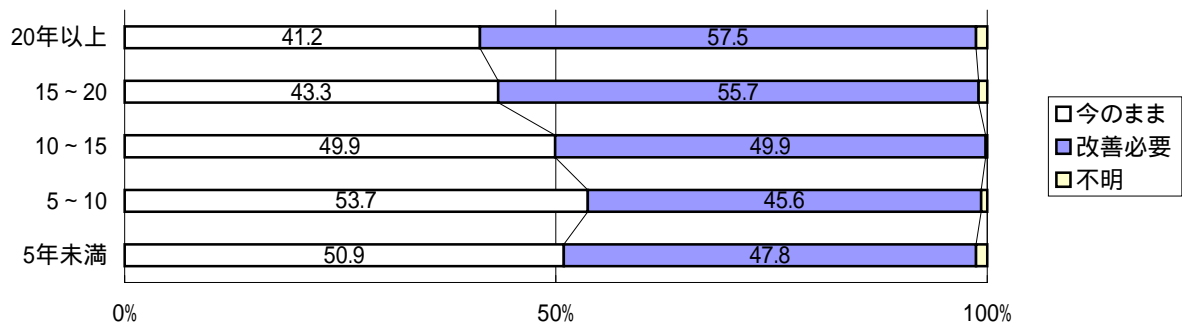
小学校だけを見ていくと、小中規模の学校に比べ、大規模の学校は改善が必要であると考えている人数が多くなっている。一方中学校では、小学校のような学校規模との関係は見られない。

ウ 職種別



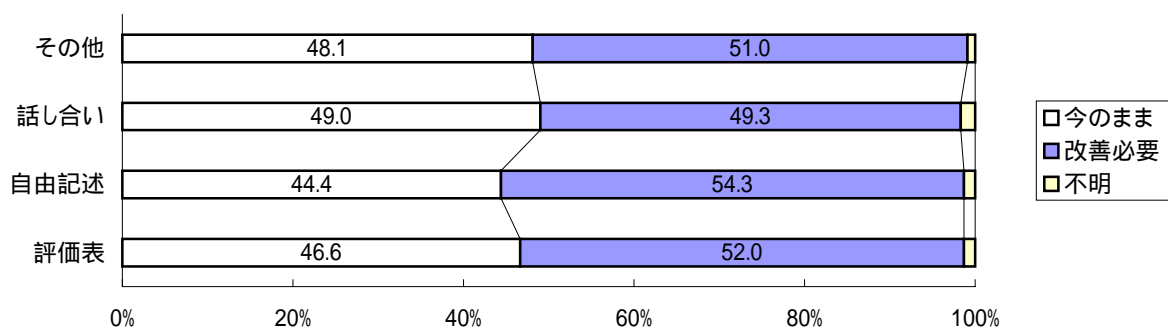
職種による割合のばらつきが見られるが、母数の差が大きいため職種による違いが見られるとは判断できない。しかし、管理職（校長と教頭）において、「改善が必要である」と考えている割合が、7割前後と高くなっている。

エ 勤務年数別



勤務年数が15年以上の職員では改善が必要であると考えている人数の方が多く、10～15年の職員では同程度であり、10年未満の職員では、今のままでよいと考えている人数の方が多くなっている。

オ 現在の評価・反省等の方法別



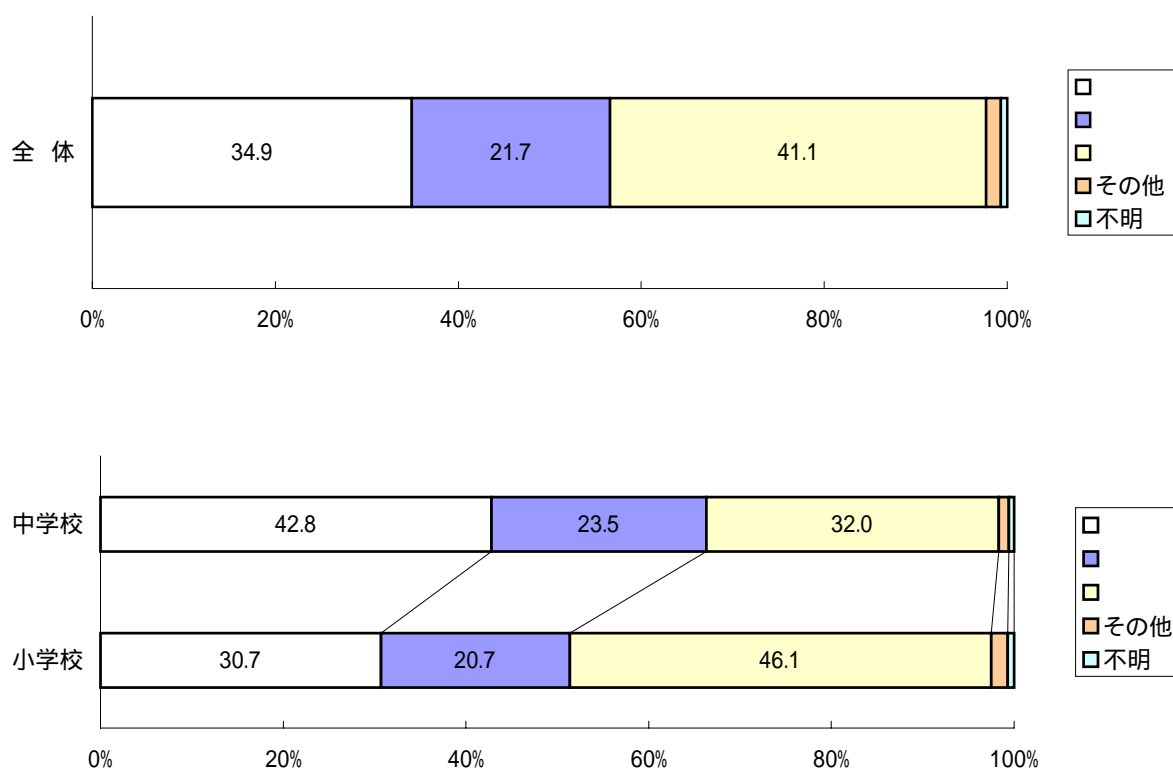
現在行われている評価・反省等別に「今のままでよい」と「改善が必要である」の割合の違いを見てみると、「自由記述」と「評価表」で評価・反省等を行っている学校の教職員では若干「改善が必要である」と考えている人数の方が多くなっているが、全体として明らかな違いは見られない。

(2)「今のままでよい」とする理由

「今のままでよい」と答えた方におたずねします。その理由を次の中から1つ選んでください。

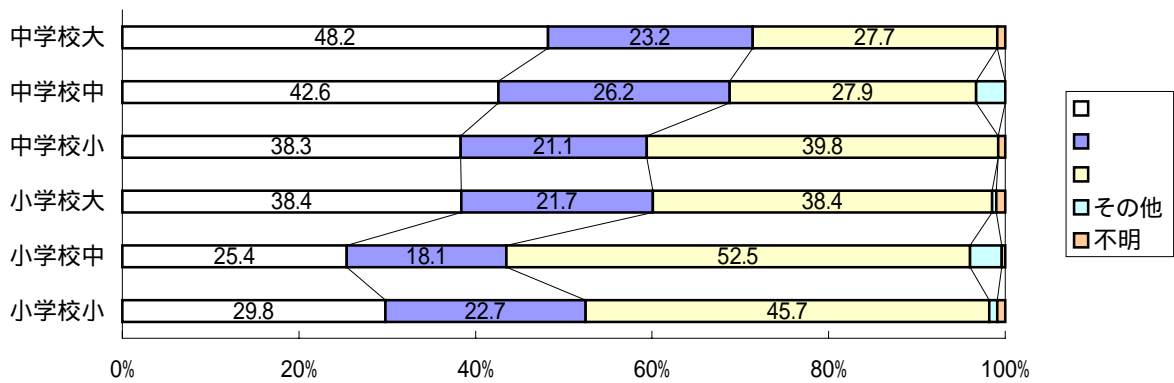
特に問題を感じていないから
 評価・反省等の結果の把握ができているから
 評価・反省等の結果が次の教育活動に活かされているから
 その他()

ア 校種別



小学校では「評価・反省等の結果が次の教育活動に活かされているから」が最も多く選ばれているのに対して、中学校では「特に問題を感じていないから」が最も多く、校種による違いが見られる。

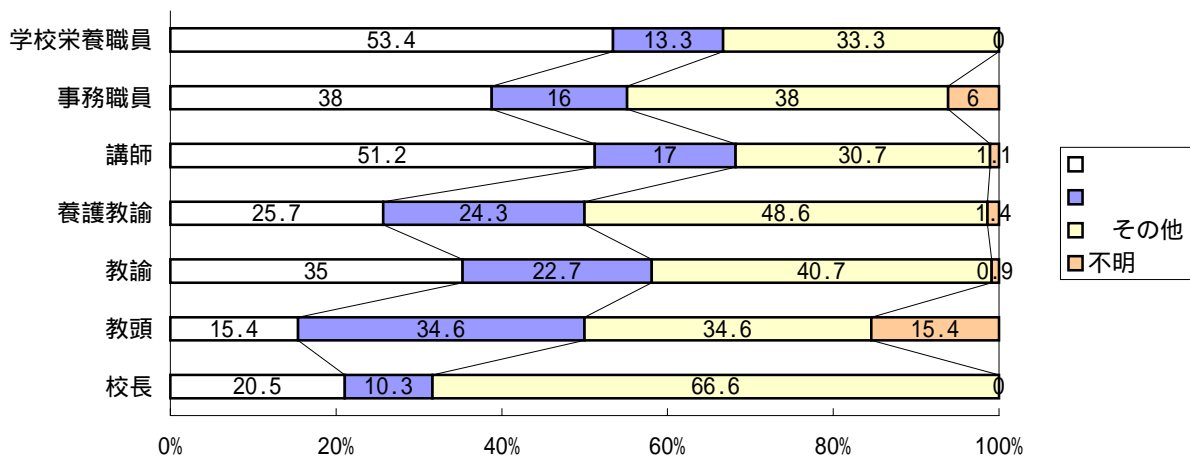
イ 学校規模別



小学校小・中規模校において、「評価・反省等の結果が次の教育活動に生かされている」との意識が強くなっている。

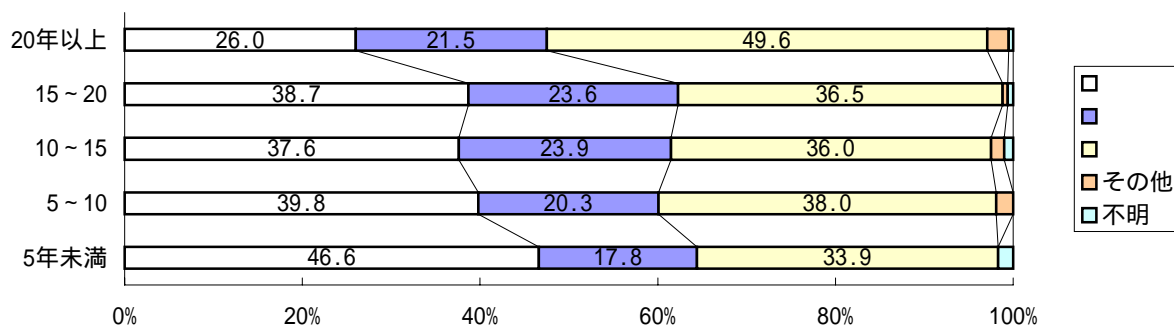
中学校では、規模が大きくなるほどとの差が大きく、現在の評価・反省等に対して特に問題を感じていないという傾向が強くなっている。

ウ 職種別



学校長では、「評価・反省等の結果が次の教育活動に生かされている」を選択している割合が高くなっている。

エ 勤務年数別

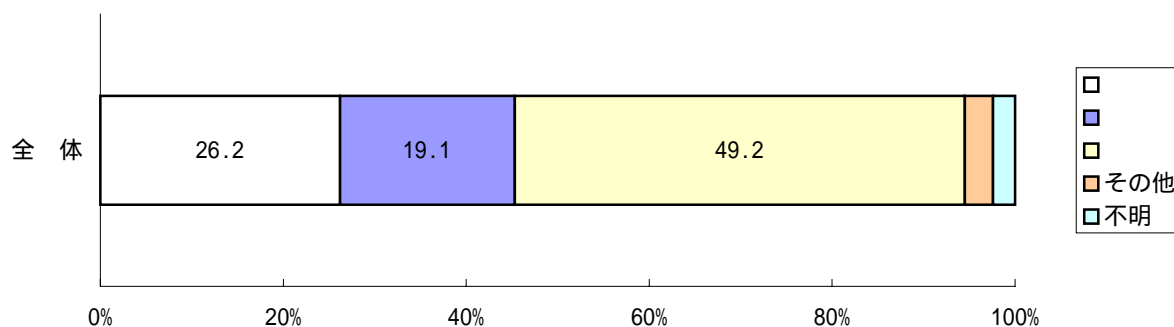


20年未満の教職員は「特に問題を感じていないから」を選択している割合が高いのに比べ、20年以上の教職員は「評価・反省等の結果が次の教育活動に生かされているから」を選択している割合が高く、しかもその差が大きいものになっている。

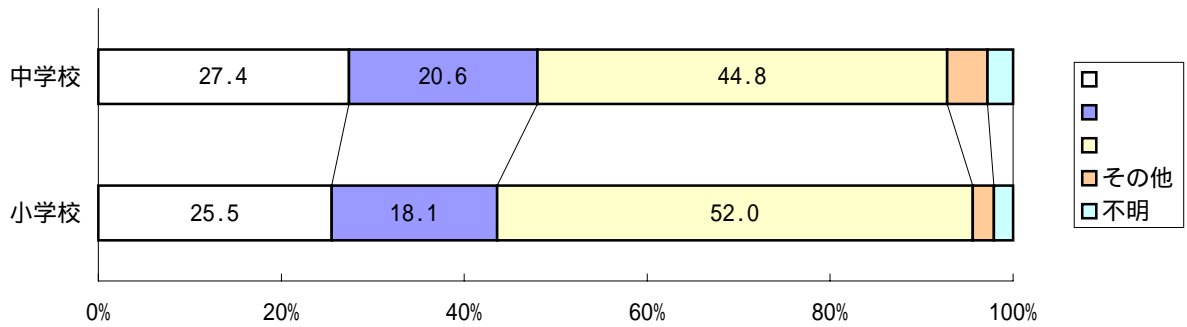
(3)「改善が必要」とする理由

「改善が必要である」と答えた方におたずねします。その理由を次の中から1つ選んでください。

- 評価・反省等の結果が次の教育活動に十分生かされていないから
- 評価・反省等が十分とはいえないから
- 常に見直しが必要だと思うから
- その他()

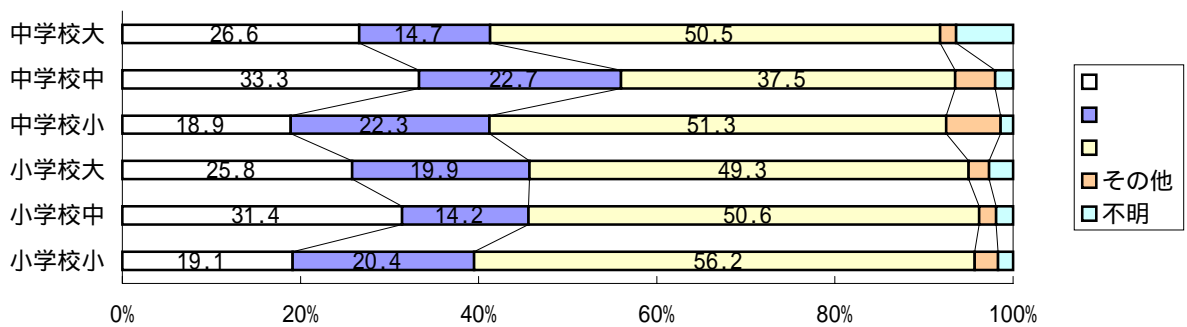


ア 校種別



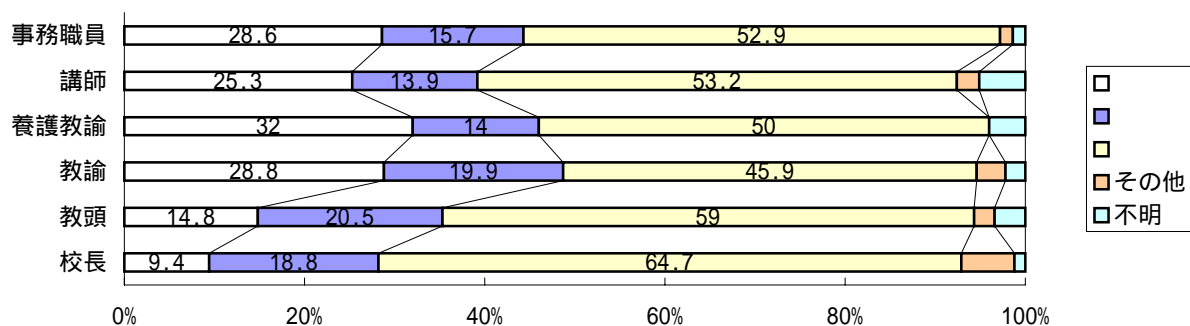
小学校においても中学校においても、「 常に見直しが必要だと思うから」が最も多く選ばれている。

イ 学校規模別



小学校においても中学校においても、小規模校は「 評価・反省等の結果が次の教育活動に十分に生かされていないから」を選択している割合が少ない。

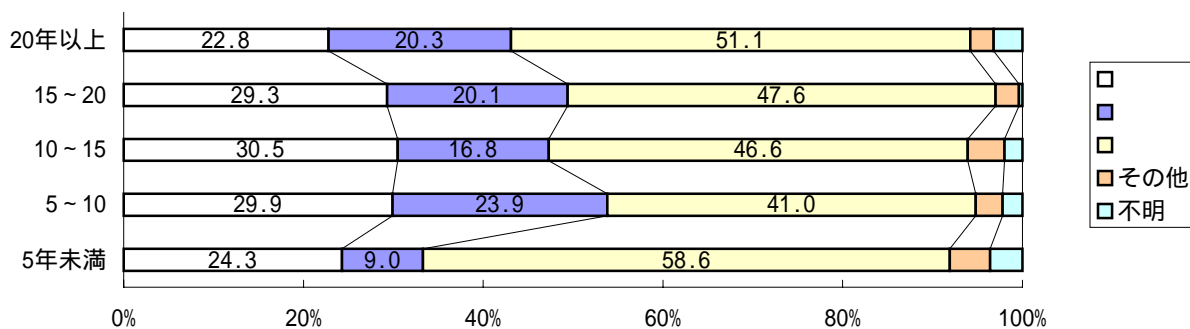
ウ 職種別



(学校栄養職員の方は、回答者数が少ないためグラフには掲載していない)

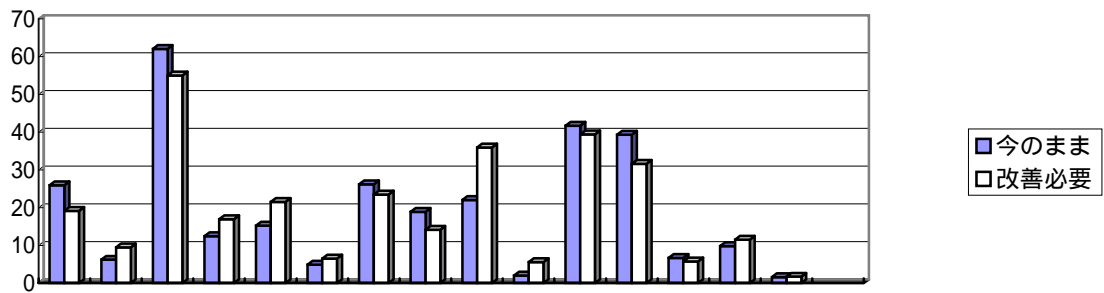
管理職の「評価・反省等の結果が次の教育活動に十分生かされてはいないから」を選択している割合が少ない。

エ 勤務年数別



5年未満の教職員の「常に見直しが必要だと思うから」を選択している割合が大きい。

イ 現在の評価・反省等に対する意識別



「今のままでよい」と考えているグループが選択した上位の3つは、「よりよい教育活動の創出意識」、「教職員が児童生徒や教育活動等について話し合う場を多くもつこと」、「児童生徒の実態を把握すること」である。一方、「改善が必要である」と考えているグループが選択した上位の3つは、「よりよい教育活動の創出意識」、「教職員が児童生徒や教育活動等について話し合う場を多くもつこと」、「評価・反省等を生かす仕組みづくり」である。

意識調査結果のまとめ

主な集計結果から

現在行っている評価・反省等の実態（学校長のみ回答）

- ・ 7割近い学校で、評価表や記述を伴う評価を行っている（Q5 - ア）
- ・ 7割を超える学校が、教育活動に関する評価・反省等のねらいとして「次の教育活動をよりよいものにするため」をあげている（Q6）
- ・ 8割以上の学校で教育活動に関する評価・反省等のねらいはだいたい達成できていると考えている（Q6 - A）

現在行っている評価・反省等の成果や課題についての意識（全員回答）

- ・ 現在行っている教育活動に関する評価・反省等について5割を超える人たちが「改善が必要である」と考えている。（Q7）
- ・ 「改善が必要である」と答えた人の半数近く（49.2%）は、その理由に「常に見直しが必要だと思う」を選択している（Q9）

これからの評価・反省等についての意識（Q10）

- ・ よりよい教育活動につながる評価・反省等を行うのに大切だと思うことの上位は次の通りです。

教職員一人ひとりがよりよい教育活動をつくり出そうとする意識を持つこと	58.1%
教職員が児童生徒や教育活動について話し合う場を多く持つこと	40.3%
児童生徒の実態を把握すること	35.1%
評価・反省等を確実に生かしていく学校としての仕組みをつくること	29.3%
評価・反省等の結果について全教職員の共通理解を図ること	24.6%

クロス集計から

改善の必要性について

- ・ 小中学校いずれの校種においても半数以上が「改善が必要である」と答えている（24頁）
 - ・ 評価表や自由記述を伴う評価方法を用いている学校は、「改善が必要である」と考える人の割合が大きい。（24頁）
- また、その理由として、小中学校とも「常に見直しが必要だと思う」が半数近くを占めている。（26頁）

終わりに

小中学校いずれの校種においても半数以上が「改善が必要である」と答えている反面、40%を超える人たちが、教育活動に関する評価・反省等について、「今のままでよい」と答えています。このことは、現在各学校で行っている教育活動の評価・反省等について、校内においても様々な受け止め方があることを示していると考えます。今後各学校において、自主性、自律性を確立し、学習者を起点とした教育活動の展開を目指す上で、教育活動の評価・反省等についてより一層検討を重ねる必要があると考えます。

三重県総合教育センターでは、今回の意識調査の結果を踏まえ、さらに関係者の意見や実践事例などを参考にしながら調査研究を続けます。

最後に意識調査にご協力いただきました小中学校並びに関係者のみなさまに深く感謝いたします。

- Q6 - A Q6で()と答え方におたずねします。そのねらいは達成できていますか。
次の中から1つ選んでください。またその理由をお答えください。
- 十分達成できている
 - だいたい達成できている
 - あまり達成できていない

理由は回答用紙の自由記述欄へ

Q7からは全員におたずねします。

現在あなたの学校で行われている評価・反省等を踏まえてお答えください。

- Q7 現在学校で行われている評価・反省等について、あなたはどのように考えていますか。
次の中から1つ選んでください。
- 今のままでよい
 - 改善が必要である
- Q8 Q7で「今のままでよい」と答えた方におたずねします。その理由を次の中から1つ選んでください。
- 特に問題を感じていないから
 - 評価・反省等の結果の把握ができているから
 - 評価・反省等の結果が次の教育活動に生かされているから
 - その他()
- Q9 Q7で「改善が必要である」と答えた方におたずねします。その理由を次の中から1つ選んでください。
- 評価・反省等の結果が次の教育活動に十分生かされてはいないから
 - 評価・反省等が十分とはいえないから
 - 常に見直しが必要だと思うから
 - その他()
- Q10 よりよい教育活動につながる評価・反省等を行うためには、あなたは、なにが大切だと考えますか。特に大切だと思うものを3つ、次の中から選んでください。
- 教育目標についての共通理解を図ること
 - 学校長のリーダーシップ
 - 教職員一人ひとりがよりよい教育活動をつくり出そうとする意識を持つこと
 - 教職員一人ひとりが評価や反省に対する意識を持つこと
 - 評価・反省等のねらいについて全教職員の共通理解を図ること
 - 評価・反省等を確実にを行うこと
 - 評価・反省等の結果について全教職員の共通理解を図ること
 - 評価・反省等の結果の引き継ぎを確実にを行うこと
 - 評価・反省等を確実に生かしていく学校としての仕組みをつくること
 - 評価表を使うなど、評価方法を工夫改善すること
 - 教職員が児童生徒や教育活動等について話し合う場を多くもつこと
 - 児童生徒の実態を把握すること
 - 児童生徒から意見を聞くこと
 - 保護者や地域の人たちから意見を聞くこと
 - その他()

2 素集計表

Q1 勤務校

No.	カテゴリー名	n	%
1	小学校	1431	63.2
2	中学校	826	36.5
	不明	8	0.3
	全体	2265	100.0

Q2 学校規模

No.	カテゴリー名	n	%
1	小学校 8学級以下	456	20.1
2	小学校 9～14学級	517	22.8
3	小学校 15学級以上	460	20.3
4	中学校 10学級以下	278	12.3
5	中学校 11～17学級	322	14.2
6	中学校 18学級以上	224	9.9
	不明	8	0.4
	全体	2265	100.0

Q3 職種

No.	カテゴリー名	n	%
1	校長	125	5.5
2	教頭	114	5.1
3	教諭	1563	69.0
4	養護教諭	120	5.3
5	講師	170	7.5
6	事務職員	123	5.4
7	学校栄養職員	24	1.1
	不明	26	1.1
	全体	2265	100.0

Q4 勤務年数

No.	カテゴリー名	n	%
1	5年未満	232	10.3
2	5年以上10年未満	294	13.0
3	10年以上15年未満	395	17.4
4	15年以上20年未満	411	18.1
5	20年以上	924	40.8
	不明	9	0.4
	全体	2265	100.0

Q5 - ア 活動評価する具体的な方法

No.	カテゴリー名	n	%
1	評価項目や評価の視点を明らかにした評価表で行う	42	33.3
2	自由記述で行う	46	36.5
3	話し合いで行う	29	23.0
4	その他	6	4.8
	不明	3	2.4
	全体	126	100.0

Q5 - イ 活動評価する検討の方法

No.	カテゴリー名	n	%
1	委員会等の小グループで行う	15	11.9
2	職員会議で行う	105	83.3
3	話し合いは行わない	2	1.6
4	その他	2	1.6
	不明	2	1.6
	全体	126	100.0

Q6 活動評価のねらい

No.	カテゴリー名	n	%
1	教育目標の達成度を確認するため	23	18.2
2	学校の実態を把握するため	2	1.6
3	次の教育活動をよりよいものにするため	92	73.0
4	教職員の協力体制を深めるため	1	0.8
5	ねらいについては特に決めていない	2	1.6
6	その他	0	0.0
	不明	6	4.8
	全体	126	100.0

Q6 -A 活動評価の達成度

No.	カテゴリー名	n	%
1	十分達成できている	4	3.2
2	だいたい達成できている	102	81.0
3	あまり達成できていない	9	7.1
	不明	11	8.7
	全体	126	100.0

Q7 現在の評価・反省等について

No.	カテゴリー名	n	%
1	今のままでよい	1033	45.6
2	改善が必要である	1202	53.1
	不明	30	1.3
	全体	2265	100.0

Q 8今のままでよいと思う理由

No.	カテゴリー名	n	%
1	特に問題を感じていないから	361	34.9
2	評価・反省等の結果の把握ができているから	224	21.7
3	評価・反省等の結果が次の教育活動にいかされているから	425	41.1
4	その他	16	1.6
	不明	7	0.7
	全体	1033	100.0

Q 9改善が必要であると思う理由

No.	カテゴリー名	n	%
1	評価・反省等の結果が次の教育活動に十分生かされてはいないから	315	26.2
2	評価・反省等が十分といえないから	229	19.1
3	常に見直しが必要だと思うから	592	49.2
4	その他	37	3.1
	不明	29	2.4
	全体	1202	100.0

Q 10よりよい教育活動につながる評価・反省等を行うために大切なもの

No.	カテゴリー名	n	%
1	教育目標についての共通理解を図ること	505	22.3
2	学校長のリーダーシップ	182	8.0
3	教職員一人ひとりがよりよい教育活動をつくり出そうとする意識を持つこと	1317	58.1
4	教職員一人ひとりが評価や反省に対する意識を持つこと	334	14.7
5	評価・反省等のねらいについて全教職員の共通理解を図ること	422	18.6
6	評価・反省等を確実に行うこと	131	5.8
7	評価・反省等の結果について全教職員の共通理解を図ること	557	24.6
8	評価・反省等の結果の引き継ぎを確実に行うこと	366	16.2
9	評価・反省等を確実に生かしていく学校としての仕組みをつくること	663	29.3
10	評価票を使うなど、評価方法を工夫改善すること	88	3.9
11	教職員が児童生徒や教育活動等について話し合う場を多くもつこと	912	40.3
12	児童生徒の実態を把握すること	795	35.1
13	児童生徒から意見を聞くこと	139	6.1
14	保護者や地域の人たちから意見を聞くこと	241	10.6
15	その他	38	1.7
	不明		
	全体	6690	295.3

この表における割合は、その項目を選択した人の、全回答者数（2265人）に対する割合である。

3 クロス集計表

Q5 - ア 活動評価する具体的な方法

	カテゴリー名	小学校		中学校	
		n	%	n	%
1	評価項目や評価の視点を明らかにした評価表で行う	30	34.1	12	31.6
2	自由記述で行う	31	35.2	15	39.5
3	話し合いで行う	20	22.7	9	23.7
4	その他	5	5.7	1	2.6
	不明	2	2.3	1	2.6
	全体	88	100.0	38	100.0

Q5 - イ 活動評価する検討の方法

	カテゴリー名	小学校		中学校	
		n	%	n	%
1	委員会等の小グループで行う	8	9.1	7	18.4
2	職員会議で行う	76	86.4	29	76.4
3	話し合いは行わない	1	1.1	1	2.6
4	その他	1	1.1	1	2.6
	不明	2	2.3	0	0
	全体	88	100.0	38	100.0

Q6 活動評価のねらい

	カテゴリー名	小学校		中学校	
		n	%	n	%
1	教育目標の達成度を確認するため	17	19.3	6	15.8
2	学校の実態を把握するため	1	1.1	1	2.6
3	次の教育活動をよりよいものにするため	64	72.8	28	73.7
4	教職員の協力体制を深めるため	0	0	1	2.6
5	ねらいについては特に決めていない	2	2.3	0	0
6	その他	0	0	0	0
	不明	4	4.5	2	5.3
	全体	88	100.0	38	100.0

Q6-A 活動評価の達成度

	カテゴリー名	小学校		中学校	
		n	%	n	%
1	十分達成できている	2	2.3	2	5.3
2	だいたい達成できている	71	80.6	31	81.5
3	あまり達成できていない	7	8.0	2	5.3
	不明	8	9.1	3	7.9
	全体	88	100.0	38	100.0

Q7 現在の評価・反省等について（校種別）

No.	カテゴリー名	小学校		中学校	
		n	%	n	%
1	今のままでよい	671	46.9	362	43.8
2	改善が必要である	745	52.1	457	55.4
	不明	15	1.0	7	0.8
	全体	1431	100.0	826	100.0

Q7 現在の評価・反省等について（学校規模別）

	カテゴリー名	小学校小規模		小学校中規模		小学校大規模		中学校小規模		中学校中規模		中学校大規模	
		n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1	今のままでよい	225	49.3	248	48.0	198	43.0	128	46.0	122	37.9	112	50.0
2	改善が必要	230	50.5	261	50.5	256	55.7	148	53.2	198	61.5	109	48.7
	不明	1	0.2	8	1.5	6	1.3	2	0.7	2	0.6	3	1.3
	全体	456	100	517	100	460	100	278	100	322	100	224	100

Q7 現在の評価・反省等について（職種別）

	カテゴリー名	校長		教頭		教諭		養護教諭	
		n	%	n	%	n	%	n	%
1	今のままでよい	39	31.2	26	22.8	739	47.3	70	58.3
2	改善が必要	85	68.0	88	77.2	809	51.7	50	41.7
	不明	1	0.8	0	0	15	1.0	0	0
	全体	125	100.0	114	100.0	1563	100	120	100.0

No.	カテゴリー名	講師		事務職員		学校栄養職員		職種不明	
		n	%	n	%	n	%	n	%
1	今のままでよい	88	51.7	50	40.7	15	62.5	6	23.1
2	改善が必要	79	46.5	70	56.9	9	37.5	12	46.1
	不明	3	1.8	3	2.4	0	0	8	30.8
	全体	170	100.0	123	100.0	24	100.0	26	100.0

Q7 現在の評価・反省等について（勤務年数別）

	カテゴリー名	5年未満		5～10年		10～15年		15～20年		20年以上	
		n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1	今のままでよい	118	50.9	158	53.7	197	49.9	178	43.3	381	41.2
2	改善が必要	111	47.8	134	45.6	197	49.9	229	55.7	531	57.5
	不明	3	1.3	2	0.7	1	0.2	4	1.0	12	1.3
	全体	232	100.0	294	100.0	395	100.0	411	100.0	924	100.0

Q7 現在の評価・反省等について（現在の評価・反省等の方法別）

	カテゴリー名	評価票		自由記述		話し合い		その他		不明	
		n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1	今のままでよい	371	46.6	390	44.4	205	49.0	52	48.1	15	23.4
2	改善が必要	414	52.0	478	54.3	206	49.3	55	51.0	49	76.6
	不明	11	1.3	11	1.3	7	1.7	1	0.9	0	0.0
	全体	796	100.0	879	100.0	418	100.0	108	100.0	64	100.0

Q 8 今のままでよいと思う理由（校種別）

	カテゴリー名	小学校		中学校	
		n	%	n	%
1	特に問題を感じていない	206	30.7	155	42.8
2	結果の把握ができています	139	20.7	85	23.5
3	次の教育活動に生かされている	309	46.1	116	32.0
4	その他	12	1.8	4	1.1
	不明	5	0.7	2	0.6
	全体	671	100.0	362	100.0

Q 8 今のままでよいと思う理由（学校規模別）

	カテゴリー名	小学校小規模		小学校中規模		小学校大規模		中学校小規模		中学校中規模		中学校大規模	
		n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1	特に問題を感じていない	67	29.8	63	25.4	76	38.4	49	38.3	52	42.6	54	48.2
2	結果の把握ができています	51	22.7	45	18.1	43	21.7	27	21.1	32	26.2	26	23.2
3	次の教育活動に生かされている	103	45.7	130	52.5	76	38.4	51	39.8	34	27.9	31	27.7
4	その他	2	0.9	9	3.6	1	0.5	0	0.0	4	3.3	0	0.0
	不明	2	0.9	1	0.4	2	1.0	1	0.8	0	0.0	1	0.9
	全体	225	100	248	100	198	100	128	100	122	100	112	100

Q 8 今のままでよいと思う理由（職種別）

	カテゴリー名	校長		教頭		教諭		養護教諭	
		n	%	n	%	n	%	n	%
1	特に問題を感じていない	8	20.5	4	15.4	259	35.0	18	25.7
2	結果の把握ができています	4	10.3	9	34.6	168	22.7	17	24.3
3	次の教育活動に生かされている	26	66.6	9	34.6	300	40.7	34	48.6
4	その他	0	0.0	4	15.4	7	0.9	1	1.4
	不明	1	2.6	0	0.0	5	0.7	0	0.0
	全体	39	100.0	26	100.0	739	100.0	70	100.0
	カテゴリー名	講師		事務職員		学校栄養職員		職種不明	
		n	%	n	%	n	%	n	%
1	特に問題を感じていない	45	51.2	19	38.0	8	53.4	0	0.0
2	結果の把握ができています	15	17.0	8	16.0	2	13.3	1	16.7
3	次の教育活動に生かされている	27	30.7	19	38.0	5	33.3	5	83.3
4	その他	1	1.1	3	6.0	0	0.0	0	0.0
	不明	0	0.0	1	2.0	0	0.0	0	0.0
	全体	88	100.0	50	100.0	15	100.0	6	100.0

Q 8 今のままでよいと思う理由（勤務年数別）

	カテゴリー名	5年未満		5～10年		10～15年		15～20年		20年以上		不明
		n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	
1	特に問題を感じていない	55	46.6	63	39.8	74	37.6	69	38.7	99	26.0	1
2	結果の把握ができていない	21	17.8	32	20.3	47	23.9	42	23.6	82	21.5	0
3	次の教育活動に生かされている	40	33.9	60	38.0	71	36.0	65	36.5	189	49.6	0
4	その他	0	0.0	3	1.9	3	1.5	1	0.6	9	2.4	0
	不明	2	1.7	0	0.0	2	1.0	1	0.6	2	0.5	0
	全体	118	100	158	100	197	100	178	100	381	100	1

Q 9 改善が必要であると思う理由（校種別）

No.	カテゴリー名	小学校		中学校	
		n	%	n	%
1	結果が次に生かされていない	190	25.5	125	27.4
2	評価・反省等が十分といえない	135	18.1	94	20.6
3	常に見直しが必要だと思う	387	52.0	205	44.8
4	その他	17	2.3	20	4.4
	不明	16	2.1	13	2.8
	全体	745	100.0	457	100.0

Q 9 改善が必要であると思う理由（学校規模別）

	カテゴリー名	小学校小規模		小学校中規模		小学校大規模		中学校小規模		中学校中規模		中学校大規模	
		n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1	結果が次に生かされていない	44	19.1	82	31.4	66	25.8	28	18.9	66	33.3	29	26.6
2	評価・反省等が十分といえない	47	20.4	37	14.2	51	19.9	33	22.3	45	22.7	16	14.7
3	常に見直しが必要だと思う	129	56.2	132	50.6	126	49.3	76	51.3	74	37.5	55	50.5
4	その他	6	2.6	5	1.9	6	2.3	9	6.1	9	4.5	2	1.8
	不明	4	1.7	5	1.9	7	2.7	2	1.4	4	2.0	7	6.4
	全体	230	100	261	100	256	100	148	100	198	100	109	100

Q9 改善が必要であると思う理由（職種別）

	カテゴリー名	校長		教頭		教諭		養護教諭	
		n	%	n	%	n	%	n	%
1	結果が次に活かされてはいない	8	9.4	13	14.8	233	28.8	16	32.0
2	評価・反省等が十分といえない	16	18.8	18	20.5	161	19.9	7	14.0
3	常に見直しが必要だと思う	55	64.7	52	59.0	371	45.9	25	50.0
4	その他	5	5.9	2	2.3	26	3.2	0	0.0
	不明	1	1.2	3	3.4	18	2.2	2	4.0
	全体	85	100.0	88	100.0	809	100.0	50	100.0

	カテゴリー名	講師		事務職員		学校栄養職員		職種不明	
		n	%	n	%	n	%	n	%
1	結果が次に活かされてはいない	20	25.3	20	28.6	1		4	
2	評価・反省等が十分といえない	11	13.9	11	15.7	3		2	
3	常に見直しが必要だと思う	42	53.2	37	52.9	5		5	
4	その他	2	2.5	1	1.4	0		1	
	不明	4	5.1	1	1.4	0		0	
	全体	79	100.0	70	100.0	9		12	

学校栄養職員と職種不明の割合（％）は、母数が小さすぎるために明記していない。

Q9 改善が必要であると思う理由（勤務年数別）

	カテゴリー名	5年未満		5～10年		10～15年		15～20年		20年以上	
		n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1	結果が次に活かされてはいない	27	24.3	40	29.9	60	30.5	67	29.3	121	22.8
2	評価・反省等が十分といえない	10	9.0	32	23.9	33	16.8	46	20.1	108	20.3
3	常に見直しが必要だと思う	65	58.6	55	41.0	92	46.6	109	47.6	271	51.1
4	その他	5	4.5	4	3.0	8	4.1	6	2.6	14	2.6
	不明	4	3.6	3	2.2	4	2.0	1	0.4	17	3.2
	全体	111	100.0	134	100.0	197	100.0	229	100.0	531	100.0

Q10 よりよい教育活動につながる評価・反省等を行うために大切なもの（校種別）

No.	カテゴリー名	小学校		中学校	
		n	%	n	%
1	教育目標についての共通理解を図る	325	22.7	180	21.8
2	学校長のリーダーシップ	120	8.4	62	7.5
3	教職員一人ひとりがよりよい教育活動をつくり出そうとする意識を持つ	855	59.7	462	55.9
4	教職員一人ひとりが評価や反省に対する意識を持つ	195	13.6	139	16.8
5	評価・反省等のねらいについて全教職員の共通理解を図る	251	17.5	171	20.7
6	評価・反省等を確実にを行う	70	4.9	61	7.4
7	評価・反省等の結果について全教職員の共通理解を図る	356	24.9	201	24.3
8	評価・反省等の結果の引き継ぎを確実にを行う	241	16.8	125	15.1
9	評価・反省等を確実に生かしていく学校としての仕組みをつくる	401	28.0	262	31.7
10	評価票を使うなど、評価方法を工夫改善する	48	3.4	40	4.8
11	教職員が児童生徒や教育活動等について話し合う場を多くもつ	628	43.9	284	34.4
12	児童生徒の実態を把握する	494	34.5	301	36.4
13	児童生徒から意見を聞く	79	5.5	60	7.3
14	保護者や地域の人たちから意見を聞く	148	10.3	93	11.3
15	その他	26	1.8	12	1.5
	全体	4237	295.9	2453	296.9

小学校の割合：その項目を選択している人数の小学校の回答者数（1431人）に対する割合

中学校の割合：その項目を選択している人数の中学校の回答者数（826人）に対する割合

Q10 よりよい教育活動につながる評価・反省等を行うために大切なもの（評価・反省等の意識別）

No.	カテゴリー名	今のまま		改善必要		不明
		n	%	n	%	n
1	教育目標についての共通理解を図る	268	25.9	230	19.1	7
2	学校長のリーダーシップ	64	6.2	114	9.5	4
3	教職員一人ひとりがよりよい教育活動をつくり出そうとする意識を持つ	642	62.1	661	55.0	14
4	教職員一人ひとりが評価や反省に対する意識を持つ	128	12.4	203	16.9	3
5	評価・反省等のねらいについて全教職員の共通理解を図る	157	15.2	259	21.5	6
6	評価・反省等を確実にを行う	51	4.9	78	6.5	2
7	評価・反省等の結果について全教職員の共通理解を図る	271	26.2	282	23.5	4
8	評価・反省等の結果の引き継ぎを確実にを行う	195	18.9	170	14.1	1
9	評価・反省等を確実に生かしていく学校としての仕組みをつくる	227	22.0	431	35.9	5
10	評価票を使うなど、評価方法を工夫改善する	21	2.0	67	5.6	0
11	教職員が児童生徒や教育活動等について話し合う場を多くもつ	431	41.7	474	39.4	7
12	児童生徒の実態を把握する	406	39.3	380	31.6	9
13	児童生徒から意見を聞く	69	6.7	68	5.7	2
14	保護者や地域の人たちから意見を聞く	101	9.8	138	11.5	2
15	その他	17	1.6	21	1.7	0
	全体	3048	294.9	3576	297.5	66

今のまま：その項目の選択人数の、今のままでよいと考えている人数（1033人）に対する割合

改善必要：その項目の選択人数の、改善が必要と考えている人の数（1202人）に対する割合

現在の評価・反省等についての回答が不明な人については、全体数が30人と少ないため、割合は表示していない。

三重県総合教育センター
企画振興部 調査研究担当
〒514-0007
津市大谷町1-2番地
TEL 059-226-3526
FAX 059-226-3706